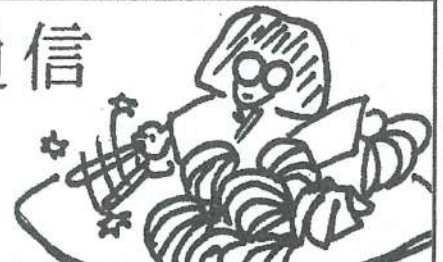




大道芸

通信



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

(daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidogeikib.info

禁裡正月の鏡餅

明治以降現在に到るまで 皇室では鏡餅を飾る風習は消えたようだが、それ以前は飾られていたようである。「風俗画報」(第二百六十四号・明治三十六年二月十日)は、左図を載せ左記の説明を掲載する。(貴重な証言故原文のまま紹介する)

禁裡正月の御鏡餅 京都 真 悟 生

京都市烏丸通下長者町上る 家は今尚宮内省及び宮方の 因に云 御買初に当りて此節 龍前町川端道喜氏は奈良時 御用を勤め昔の居住を變めり森を差出さざる前には如代より皇室の御用を勤め必ず御所の西、蛤御門の前に何なる出入方に対しても御買仁乱以降皇室式微の際に当 在りてちまき司の暖簾を初をなされざりしと洩れ聞くり御朝の物称する御餅を献 垂れて所謂道喜粽並に餅菓 上し御歴代の天皇陛下は必 子を製造販売せり 同家よ らず御朝食前に御供に奉る 昔奉りたる宮廷の正月御 天皇家の鏡餅を取り上げた 例とぞなりぬる 明治二年 鏡餅がざり方並に正月二日 のは、今は門松も鏡餅も飾ら 東京に遷都あらせらるるに 御買初め飾りの盛り方は因 ないのが天皇家の伝統らしい が、その伝統とやらが何時は 及びて其例止みにき 川端の如し

御厚盤小大三寶三飾筆

大奉書或枚重三四方へ敷く此敷八枚也其上へ穂長譲り葉或枚重三四方へ敷く此敷八枚 其上赤白(赤豆色)御鏡餅重三升五合計此餅七升也其上へ大菱葩拾枚重此 餅一三升三合也大長昆布或枚重此敷四枚也穂長大菱葩串柿或本一枚金 餅其上へ海老其下より白紅大長水引三升結也 鏡餅周圍大抽或三寸じ橘或拾、かや、かち 栗或合、蜜柑、白柿或拾、

右 宮様方御居雛形也

仙洞御所へ御

鏡五升取

此餅重斗也

女御様へ御

鏡餅重斗

取此餅重

斗也

學習所へ

孔子様へ御鏡餅五

升取此餅重斗也

三寶、内菱葩拾枚重其上白きふー

め二把(此はわかしやう)土器右ノ方へ懸或

足、土器左ノ方へ敷く子或三升前へ柿の皮包或本紙より

ミ結テ土器右ノ方へ四方形押印或三升左ノ方へ塩高藤、中程、

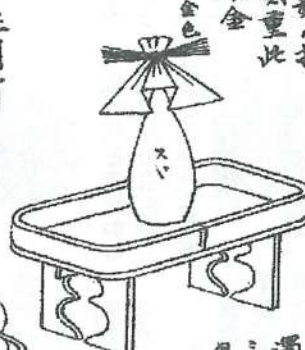
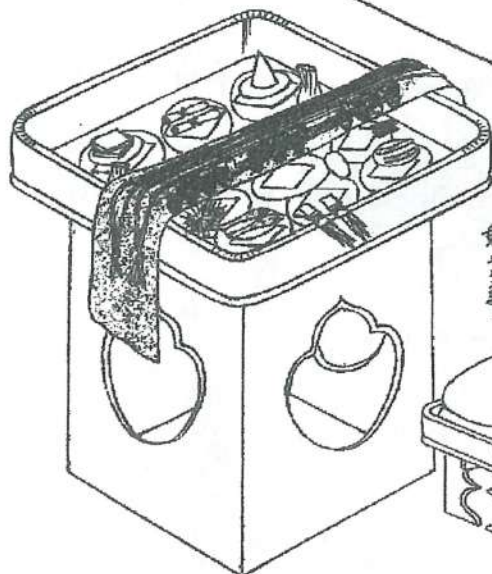
小判形おふし或枚重此とち左へ穂長廿石左右紙包樞かち栗

セツ、包菓子昆布長或枚重此とち右へ穂長串柿或本(買さし錢)



正月二日
御買初
鏡五升方

阿ぬり
或枚重
大判形餅
如此別台
東七ル華



濁酒錫徳利
ミ入 此餅重合
但中派ノ事
口清上手紙ヲ
金赤水引ヲ
結テ
(三寶ノ花重)